

# ～県内景気は緩やかに拡大しているものの、 拡大傾向に一服感もみられる～

## 海邦総研県内景気動向調査(2016年4-6月実績および7-9月見通し)

県内の各種経済指標や海外需要の活発さを背景に、県内景気は好調ではあるものの、今期(4-6月期)の県内企業の景況判断BSIは前期(1-3月期)と比較して、「上昇」よりも若干、「下降」超となっていることなどから、「県内景気は緩やかな拡大が続いているものの、拡大傾向に一服感もみられる」。

来期(7-9月期)の見通しとしては、海外需要への期待などから、景気は緩やかに拡大すると見込まれる。ただ、観光客需要、人手不足、原材料価格などは先行きの景気に影響をあたえることから今後の行方を注視する必要がある。

### ～業種別概要～

#### 観光関連

#### 観光関連は堅調、団体旅行から個人旅行へ、旅行内容に変化の兆し

外国客を中心に入域観光客数は増加しており堅調。国内外問わず個人客需要は活発となっている。ただ、売上や利益は一部、伸び悩みもみられる。

#### 建設・不動産関連

#### 建設・不動産関連は官需、民需ともに好調

公共工事関連が底堅いだけでなく、民需について特に、マンション販売に関しても新築・中古ともに活況。県内景気の上を背景に、国内外から投資目的で県内不動産が注目される傾向が続いている。

#### 食品・消費・サービス関連

#### 個人消費は外国人観光客に支えられ堅調

外国人観光客等の海外需要は上昇傾向にあるが、県内、県外需要に伸び悩みが見られるのは懸念材料。今後は、原材料価格の上昇も注視する必要がある。

### ～資本金別・地域別概要～

#### 資本金別・現状判断と見通し

今期(4-6月期)の景況判断BSIは、1,000万円未満の企業においては、「上昇」と「下降」が同水準。1,000万円以上5,000万円未満の企業、5,000万円以上1億円未満の企業においては、「下降」超。1億円以上の企業では「上昇」超となっている。来期(7-9月期)については、全てのカテゴリーで「上昇」が「下降」を上回っている。

#### 地域別・現状判断と見通し

今期(4-6月期)の景況判断BSIは、本島中部地区、離島地区では「上昇」が「下降」を上回っている。一方、那覇地域の企業においては、-13.7と「上昇」よりも「下降」超幅が大きくなっている。

## 県内企業の景況判断 BSI

### ■現状と見通し

【実績(2016年4-6月期)】

●全業種の景況判断BSI(実績)は、-3.0と「上昇」よりも「下降」超

【見通し(2016年7-9月期)】

●全業種の景況判断BSI(見通し)は、19.5と「上昇」超となっている

### ■業種別結果

【実績(2016年4-6月期)】

●「上昇」超となったのは、不動産業等(26.7)、医療・福祉(4.3)、その他のサービス業(7.1)

●「下降」超となったのは、卸売・小売業(-23.6)、製造業(-7.7)、情報通信業(-5.9)、建設業(-5.4)、飲食サービス業(-4.0)、旅行・宿泊業(-3.0)

【見通し(2016年7-9月期)】

●すべての業種で「上昇」超の見通しとなっている

企業の景況判断BSI(前期比「上昇」「下降」社数構成比)

	2016年	
	4-6月期	7-9月期
	今回実績	今回見通し
全業種 BSI	-3.0	19.5
建設業	-5.4	29.7
製造業	-7.7	23.1
情報通信業	-5.9	11.8
卸売・小売業	-23.6	5.6
不動産業等	26.7	6.7
旅行・宿泊業	-3.0	42.4
飲食サービス業	-4.0	40.0
医療・福祉	4.3	0.0
その他のサービス業	7.1	22.9
資本金別		
1,000万円未満	0.0	19.8
1,000万円以上5,000万円未満	-5.7	18.9
5,000万円以上1億円未満	-5.9	35.3
1億円以上	2.5	7.5
従業員数別		
10人未満	-2.7	15.1
10人以上20人未満	3.8	28.3
20人以上50人未満	-12.1	13.2
50人以上100人未満	-1.9	28.3
100人以上	6.7	24.4
地域別		
本島北部地区	-5.6	13.9
本島中部地区	4.7	19.8
本島南部地区	-4.5	27.3
那覇地区	-13.7	21.1
離島地区	4.4	15.6

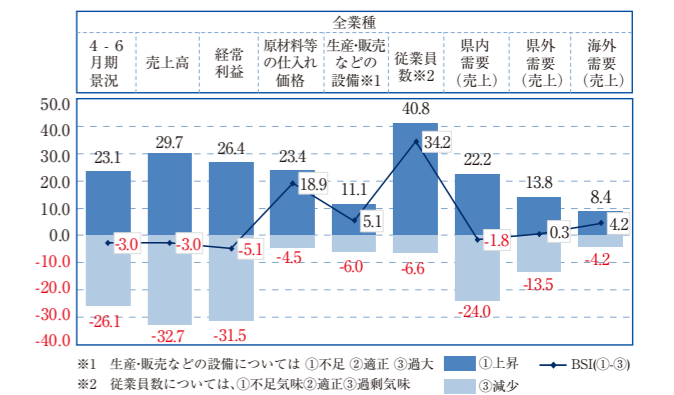
## 全業種の結果

### ■4-6月期の現状(1-3月期比較)

4-6月期の景況は-3.0で、「下降」超となっている。売上高(-3.0)、経常利益(-5.1)がそれぞれ「下降」超となっている。原材料等の仕入れ価格は「上昇」超となっている。従業員数(34.2)は「不足気味」超となっている。生産・

販売などの設備についても「不足」超となっており、売上が下降しているとはいえ、景況が下降している状況ではないと考えられる。

海外需要(4.2)が特に好調となっている。

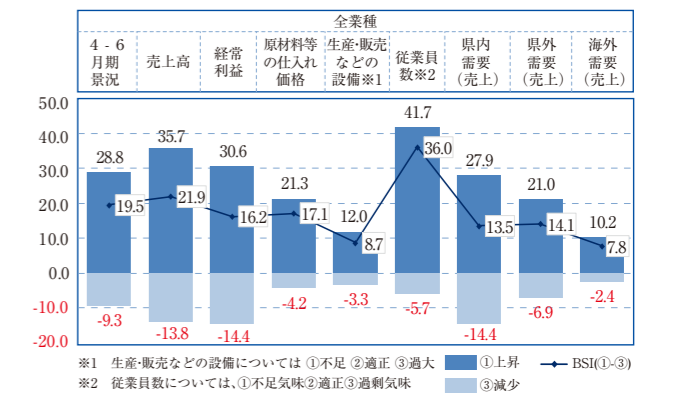


### ■7-9月期の見通し(4-6月期比較)

7-9月期の景況見通しは19.5で、「上昇」超となっている。全ての項目において、「上昇」超となっている。

原材料等の仕入れ価格も「上昇」超の見通しとなっている。原材料価格等の増加は今後の各事業所の景況にも影響を与えるとみられ注視する必要がある。

県内需要、県外需要、海外需要ともに「上昇」超の見通しとなっている。

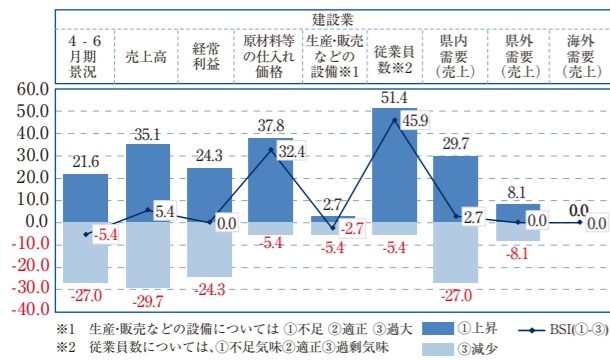


### ■業種別 4-6月期の現状と7-9月期見通し

#### 【建設業】

4-6月期の景況は-5.4で、「下降」超となっている。売上高(5.4)は「上昇」超。ただ、原材料等の仕入れ価格(32.4)も「上昇」超となっており、懸念材料となっている。従業員数(45.9)は「不足気味」超となっている。

7-9月期の景況見通しは29.7となっている。「下降」との回答はなかった。ほとんどの項目において「上昇」超となる見通しとなっている。原材料等の仕入れ価格も「上昇」超の見通しとなっている。従業員数も「不足気味」超が続くとの見通しとなっている。特に県内需要の増大への期待が大きい。

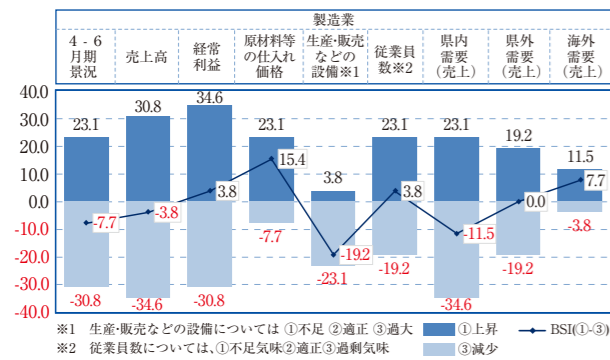


【製造業】

4-6 月期の景況は -7.7 で、「下降」超となっている。売上高 (-3.8) は「下降」超だが、経常利益 (3.8) は「上昇」超となっている。県内需要 (-11.5) はふるわなかったものの、海外需要 (7.7) が特に好調となっている。

7-9 月期の景況見通しは 23.1 で、「上昇」超となっている。特に売上高 (30.8)、経常利益 (34.6) は「上昇」が「下降」を大きく上回る見通しとなっている。

原材料等の仕入れ価格も「上昇」超の見通しとなっている。従業員数も「不足気味」超と見通しとなっている。県内需要、県外需要、海外需要ともに「上昇」超の見通しとなっている。

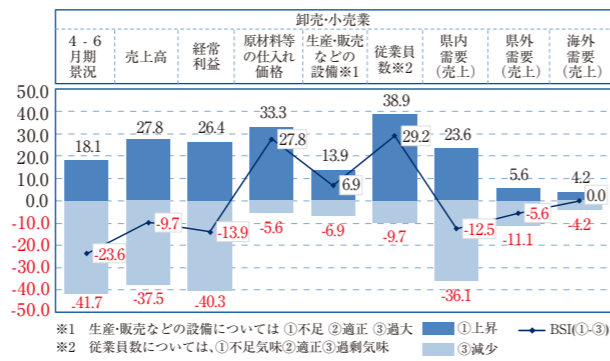


【卸売・小売業】

4-6 月期の景況は -23.6 となっており、「下降」超。売上高 (-9.7)、経常利益 (-13.9) が「下降」超となっている。原材料等の仕入れ価格 (27.8) は「上昇」超となっている。従業員数 (29.2) は大きく「不足気味」超となっている。県内需要 (-12.5)、県外需要 (-5.6) がそれぞれ「下降」超となっている。

7-9 月期の景況見通しは 5.6 で、「上昇」超となっている。全ての項目において、「上昇」超となる見通しである（経常利益は同数）。原材料等の仕入れ価格も「上昇」超の見通しとなっている。従業員数も「不足気味」超が続くとの見通しとなっている。

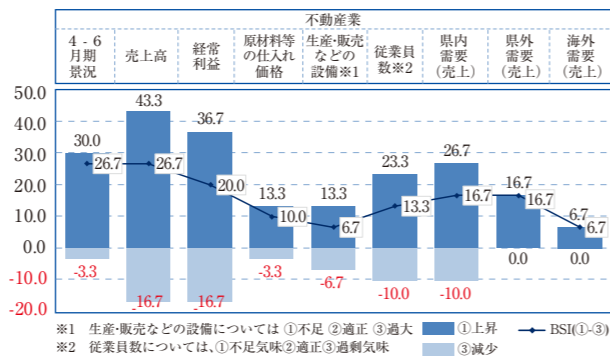
県内需要、県外需要、海外需要ともに「上昇」超の見通しとなっている。



【不動産業】

4-6 月期の景況は 26.7 で、大きく「上昇」超となっている。売上高 (26.7)、経常利益 (20.0) がそれぞれ大きく「上昇」超となっている。県内需要 (16.7)、県外需要 (16.7)、海外需要 (6.7) もそれぞれ「上昇」超となっている。

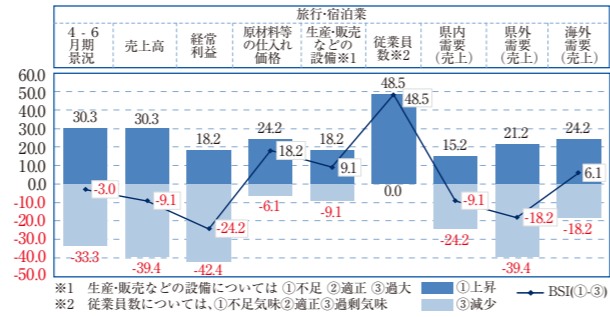
7-9 月期の景況見通しは 6.7 で、「上昇」超となっている。全ての項目において、「上昇」が「下降」を上回る見通しである（海外需要は同数）。



【旅行・宿泊業】

4-6 月期の景況は -3.0 で、「下降」超となっている。売上高 (-9.1) のほか、経常利益 (-24.2) が大きく「下降」超となっている。従業員数 (48.5) は「不足気味」超が大きく上回っている。海外需要 (6.1) は「上昇」超となったものの、県内需要 (-9.1)、県外需要 (-18.2) は「下降」超となっている。

7-9 月期の景況見通しは 42.4 で、「上昇」超となっている。全ての項目において「上昇」超となっている。従業員数も「不足気味」超が続くとの見通しとなっている。県内需要、県外需要、海外需要ともに「上昇」超の見通しとなっている。



## 観光関連概況

外国客を中心に入域観光客数は増加しており堅調。国内外問わず個人客需要は活発となっている。ただ、売上や利益は一部、伸び悩みもみられる。観光関連（旅行・宿泊業）の 4-6 月期における景況判断 BSI は -3.0 で、若干のマイナスを示した。

国内および海外からの個人客需要が活発で、個人客向けであるレンタカーやダイビングショップ、小規模宿泊施設で外国客への売上を伸ばしている事業者がみられる。他方、団体客が主な利用客である貸切バス業者や、インバウンド団体をターゲットとする旅行社で受入数減少がみられる。宿泊施設では、客室価格の値上げにより利益確保につながっているところもある。ただ、人材不足は依然として各所でみられ、現場の人材からリーダー人材まで足りておらず、多くの事業者がスタッフの確保と定着率向上に注力している。

今後の見通しとしては、多くの事業者は夏場の観光シーズンということもあり、来期（7-9 月期）の景況判断はプラスとなっている。ただ、沖縄のインバウンドを牽引してきた安価な団体旅行においては、若干の需要減退があるという見方もあり、団体旅行をターゲットとする事業者においては厳しい状況となる可能性がある。

## 建設・不動産関連概況

建設関連は官需、民需とも好調に推移している。建設業の 4-6 月期の企業の景況判断 BSI は若干のマイナスだが、売上高は前期比で上昇となっている。公共工事関連が底堅いだけでなく、マンション販売に関しても新築・中古ともに活況となっており、新築は完売までの期間が短く、中古も通常想定される価格よりも高値で取引されるケースが見られている。一方、戸建住宅は一定程度の需要はあるものの、減少傾向にあるとの見立てから、経営の多角化で戸建て販売以外の部門強化や、新分野に参入する動きも見られる。相対的に人手不足感を感じている事業者も多い。

不動産関連事業者の今期の企業の景況判断 BSI は 26.7 で、業種別では最も高い値となっている。新築アパートの建設需要が高い水準で推移しており、新築物件に対する需要は根強い。そのほか、県内の景気のよさを背景に、国内外から投資目的で県内不動産が注目される傾向が続いている。

今後の見通しとしては、建設業、不動産業等ともに、来期（7-9 月期）の景況判断見通しはプラスとなっており、当面は好調が持続するとみられる。

## 食品・消費・サービス関連概況

卸売・小売業、飲食サービス業など県内主要なサービス業の 4-6 月期の企業の景況判断 BSI はマイナスとなっている。外国人観光客等の海外需要は上昇傾向にあるものの、県内、県外需要に伸び悩みが見られるようだ。また、前期よりも売上減少だけでなく、原材料等の仕入れ価格の上昇も懸念材料となっている。ただ、ターゲットを明確にしつつ販売戦略を構築している事業者の景況は好調となっていることから、事業者間での二極化が進みつつある傾向がうかがえる。

卸売・小売業、飲食サービス業だけでなく情報通信業、医療・福祉関連なども含めたサービス業全般において人手不足を感じる事業所が多くなっており、今後の安定的な事業経営に向けては人材確保が重要なカギとなりそうだ。実際、人材確保に向け、給与のアップ、正社員化、働きがいの向上に向けた支援等、事業者ごとに人材確保に向けた取り組み強化が見られている。

来期（7-9 月期）の見通しとしては、各業種とも海外だけでなく、県内、県外からの需要も増加すると見ており、景況判断 BSI はプラスとなっている。ただ、原材料価格等の増加は今後の各事業所の景況にも影響を与えるとみられ注視する必要がある。

※同調査結果については、海邦総研 HP で公開しております。  
ご興味のある方は、ご覧ください。(http://www.kaiho-ri.jp/)

※調査概要は以下のとおりである。

- 調査目的: 沖縄県内企業の経営の実態と見直しを把握し、今後の各企業の経営の参考情報として提供することを目的として実施した。本調査は、各種経済関連指標だけでなく、県内各事業所へのアンケートおよびヒアリング等を実施し、県内景況の現状と見直しについて整理を行った。
- 調査対象: 原則、県内に本社所在地があり、従業員 5 人以上の事業所が対象
- 回答状況: 333 事業所

なお、本調査は、以下 2 点の特徴がある。

- ・調査対象を、従業員数 5 人以上の企業としており、比較的小規模な事業者における景況も反映されたものとなっている。
- ・本調査においては、県内企業の各種 BSI (Business Survey Index) を算出した。算出方法は、以下の通り。

BSI = 「上昇」と回答した企業構成比 / (「下降」と回答した企業構成比)

※BSI は景況の現状と先行きを「上昇」「下降」といった前期と変化した方向で判断する指標である。BSI がプラスであれば、企業の景況や各種項目が前期と比較して好調であるということであり、BSI がマイナスであれば、景況や各種項目が前期と比較して不調と考えられる。